

蓮の花

池松 孝子

蓮の原産地はインドとされる。地下茎から水面に葉を出し、茎には通気のための穴が通っている。蓮の花托はたくさんの実を包んでいて、蜂の巣のような穴があり「ハチス」とも呼ばれる。その果実の皮はとても厚くて種が出て自然に発芽することはあまりないようだ。そのため、発芽できる状態のまま土の中に長い期間眠っていられるというわけだ。

昭和二十六年、千葉市検見川の落合遺跡で発掘された蓮の実から発芽、開花したのが二千年以上前の「古代蓮」である。作業員が縄文時代の船溜まりと思われる工事現場から丸木舟と蓮の花托を発見した。そして植物学者で蓮の権威でもあった大賀一郎博士を中心に発掘調査が行われた。さらに地下六メートルの泥炭層からも計三粒の蓮の実が発掘され、そのうち一粒だけが育ち、昭和二十七年にピンクの蓮の花が咲いた。放射性炭素年代測定により、弥生時代後期のものであると推定された。これが国内外に「世界最古の花、生命の復活」とされた「大賀蓮」である。

以前、埼玉県行田市の「古代蓮の里」を訪ねたことがある。約二千年前、この一帯は湿地帯であった。そこが公共施設の地下工事建設現場となって、偶然発見された種子が発芽した。その他、中尊寺の金色堂須弥壇から発見された「中尊寺蓮」、千葉公園の蓮池の古代蓮も毎年、見事な花を見せてくれる。

蓮は早朝から咲く。三日間、開いたり閉じたりを繰り返す。花を見るなら午前中という。もし、午後にも咲いている花があったらそれは四日目の花でその日を最後にバラバラと花びらを落とすそうだ。早朝観蓮会をやっている寺院もある。この観蓮会は奈良時代から行われていた記録があるという。また、蓮は咲く時「ポン」と音をたてると聞いて、早朝、友人と府中郷土の森へ行ったことがある。残念なことに、全く音はしなかった。居合わせた人達もがっかり。後に、この噂は「嘘」だと教えられた。

はや閉ぢて明日待つ蓮の花となり

稲嶺 法子